

## 「キリストの御からだの豊かさ」 I コリント12：12－18

I 「神はみこころに従って、からだの中にそれぞれの器官を備えてくださったのです」：18。キリストの体である教会の多様性、豊かさ。

1. コリント教会では、それぞれの賜物、能力等に優劣をつけ、相互に誇ったり見下げたりする傾向があった。その結果、自らを不必要な者と卑下する人がいた。足が手のように目立つ部分でなくても、同じ働きはしなくても、同じでないからこそ、一体とされている大切な器官です。足と手、目と耳、あの人とこの人、聖書の御言葉を土台とする主にある、あの教会、この教会、どちらが大切かという考え方は間違っている。神が備えられたどの器官も、世界中のどの国（アイルランド、ガーナ、アメリカ、スイス、日本、他すべての国々。順番はない）の教会も、一つの教会の一人一人が共に大切な存在。主の教会には、足として動く賜物の人、目立たなくても祈りで教会や他の働きを支える賜物の人、手として神から与えられた能力を教会の為に用いる人、愛の手を差し伸べる人、子供達やお年寄り、病や弱さのある人々のお世話をする人、耳として他の人の悩みに愛をもって耳を傾け、寄り添う事で慰める人（震災に会った人々への愛。耳を傾けないで、励まそうと焦る言葉は真の慰めにはならない）、耳として礼拝メッセージに真剣に耳を傾け、メッセージの奉仕者を支える人、目として、ある人の口には出せない悩みの姿を見て、そっと祈り、そっと声をかける人。神が、私達一人一人を、そして、世界中の教会の一つ一つを大切にしておられるから。

2. 各教会の一人一人、世界中の教会にそれぞれ違い、個性があるのは、神の御業の豊かさ、キリストの御体である教会の豊かさ。それぞれ違うお互いが、ねたんだり、見下げたり、さばき合うのではなく、神から与えられた違いは、主にあって尊敬し合い、補い合い、支え合い、神の栄光が現れる事と主の福音が世界中に伝えられ、世界中に、各地に主の体である主の教会が建て上げられる為に用いられる。

II 「からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同じです」：12。からだの部分は多くあっても、主にある教会が世界中に多くあっても、キリストの体として、つながっており、主にあって一つである。私達が、主にあって何かの奉仕をする時、それは、主の体につながった働きである。主の教会に祈り支えられ、一人一人、一つ一つの教会が主にあって、一つの体、キリストの体としてつなげられている。「バプテスマを受けてキリストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。ユダヤ人もギリシャ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありません。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです」ガラテヤ3：27，28。

III 「感謝の心を持つ人になりなさい」コロサイ3：15。神と人々に感謝したい。

1. ヘレン宣教師の母教会であるブルムフィールド教会の当教会の為に祈りの支えと愛の献金を心から感謝します。

2. 貴教会からヘレン宣教師を日本に送り出して下さっている事を心から感謝します。
3. あなたがたが、送り出して下さっているヘレン宣教師は、日本で、当教会で、とても良い交わりが与えられ、尊い働きをしておられます。心から感謝します。
4. 本日、アイルランドから8名の皆さんが、当教会に来て下さった事、心から感謝します。
5. 2011年3月11日に日本の東北で大きな地震があり、その震災に会った人々を支えるための宮古支援をして下さったマギンティ師御夫妻が本日礼拝に参加して下さった事を心から感謝します。

IV 「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです」 Iヨハネ4：10, 11

1. 本日、互いに愛し合い、主にある交わり（バーベキュー他）を喜び楽しみましょう。  
「たよりにならない富に望みを置かないように。むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように」 Iテモテ6：17  
「見よ。兄弟たちが一つになって共に住むことは、なんというしあわせ、なんという楽しさであろう」  
詩篇133：1
2. 場所が離れても、これからも、お互いに、お互いの事を思い、祈りましょう。私達は、どこにいても、主の体である教会の一部であり、主にあって互いにつながっている事を忘れずに！  
「すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさまして、すべての聖徒のために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。また、私が口を開くとき、語るべきことばが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるよう私のためにも祈ってください」 エペソ6：18, 19